

スポーツに魔法の力あり

ニューヨークでのイベント「女性とスポーツ：2030アジェンダ～ジェンダー平等の達成、女性と女兒に対する暴力根絶に果たすスポーツの役割」(2016年3月17日)におけるプムズイレ・ムランボ=ヌクカ国連事務次長兼UN Women事務局長のスピーチ

このイベントは、第60回国連女性の地位委員会(CSW)の中でも私が好きなプログラムです。女性を強くしてくれるものについて本気で話し合う場だからです。前向きなことについて、力強さについて話し合う場。そして、それこそがスポーツが重要である理由のひとつです。

女性と女兒について私たちが取り組んでいることの多くは、女性が闘っている対象に関連したものです。でも、スポーツは、女性と女兒をもっと明るく肯定的にとらえる、そんな機会を与えてくれます。スポーツを通して、女性の力強さ、勝者になる力を見せることができます。

同時に、スポーツは社会においても仕事においても重要です。仕事や生活で女性が必要とするスキルを与えてくれるからです。チームの一員になる能力、正々堂々と戦って勝利する精神力と意志、自分の身体を気遣い健康を保つことの重要性、そして幸福な状態から得られるもの。スポーツはこうしたものも与えてくれます。

スポーツは女性にとって重要な収入源になる可能性があります。昨日、同一価値労働同一賃金について話し合いました。全米女子ワールドカップチームの前キャプテンであるアビー・ワンバックさんが、ご自身やチームの経験を話してくれました。男女合わせた中でも世界最多得点者であるワンバックさんの報酬は、彼女よりも得点数の低い男子選手の報酬よりも低かったということでした。

皆さんは昨年、女子サッカーワールドカップで米国チームが優勝したことを覚えていらっしゃると思います。でも、その報酬は優勝した男子チームの10分の1にすぎず、しかも負けた米国の男子チームの4分の1だったのです。なぜこんなことが起きるのでしょうか。言葉がありません。スポーツは女性の収入源です。スポーツで十分に生活していけるように、女性の利益を支援し、保護していくことも重要です。

UN Womenは、スポーツを通じて素晴らしいパートナーシップを構築しました。ここにいらっしゃる皆さんはUN Womenのパートナーです。ブラジルも、UN WomenとIOCのパートナー国です。スポーツを通して、エンパワーメントから自尊心に関する問題などあらゆる問題に取り組み、ブラジルのリオに住むすべての少年少女の生活を向上させ、良い影響を与えようと共に取り組んでいます。これも、ブラジルの人々に私たちが残していく遺産、つまり



「女性とスポーツ：2030アジェンダ～ジェンダー平等の達成、女性と女兒に対する暴力根絶に果たすスポーツの役割」でスピーチをするプムズイレ・ムランボ=ヌクカ国連事務次長兼UN Women事務局長 写真：UN Women/Ryan Brown

レガシーです。

UN Womenは、FIFAやIOCなどの国際機関、また国レベルのクラブや団体など、あらゆるスポーツ団体において女性の参加を推進する活動を行っています。バレンシア・クラブ・デ・フトボルとは素晴らしい協力関係にあり、スポーツにおけるHeForSheキャンペーンの展開に協力していただいています。こうした協力関係を通じて男性と男児を取り込み、本当の男らしさとは何か、友人に良い影響を与えるために男性に何ができるかを伝えることができるようになりました。

バレンシアチームの選手が着るジャージにはUN Womenのロゴが使われているので、それが会話のきっかけになります。「UN Womenって何?」、「何のための団体?」、「なぜこのロゴが付いているの?」。ここから会話がスタートします。さらに、女性の問題にはほとんど縁がないと思われるスポーツの観戦者にもメッセージを届けることができます。典型的な国連機関であるUN Womenは、スポーツ競技場に出向く人たちと話す機会はほとんどありません。スポーツの観戦者に対して話ができるのは、そのスポーツを知っている人だけ、つまりほんの限られた人だけなのです。

ですから、2030アジェンダについて考え、持続可能な開発目標について考えるときに、スポーツを目標達成の重要な要素のひとつとして見るのが重要です。スポーツの場で、女性自身が固定観念を打ち破るのですから。優れた才能を排除することはできません。才能がある人に機会を与え、その人が自分の役割を果たす。そうすれば、女兒に対する固定観念などなくなってしまうでしょう。

スポーツには魔法の力があります。そしてUN Womenは、その魔法の一翼を担っています。

プムズイレ・ムランボ=ヌクカ 国連事務次長、UN Women事務局長

(UN WOMEN WEEKLY NEWS UPDATE 2016. 3.21より)

(翻訳協力：実務翻訳スクール.com 湯島 正)

ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に向けて

UN Women日本事務所 所長 福嶋香代子

UN Women日本事務所は、UN Womenのリエゾン・オフィスとして、昨年4月に東京都文京区の文京シビックセンターにおいて活動を開始しました。同事務所は、日本の政界、財界、教育界、市民関係・女性関連団体、メディア等、日本の様々な関係者とのパートナーシップを構築すること、UN Womenの役割、活動について広報を行うこと、及び、UN Womenの経験や知見を日本の取り組みに活かすことを主要な役割として担っています。

貴協会は、長い期間にわたりジェンダー平等と女性のエンパワーメントのために真摯な活動を続けられ、UN Womenを積極的に支援されていると承知しております。

昨年の当事務所の開設以来、貴協会の代表の方々と複数回にわたりお会いし、相互の活動について情報共有を行い、理解を深めるとともに、今後の協力について話し合いを行ってまいりました。また、昨年8月30日の当事務所の開所式においては、有馬理事長様にご挨拶いただき、本年3月8日の当事務所の国際女性デーシンポジウムに森事務局長様に出席いただくとともに、当事務所からは、本年2月27日の貴協会の総会において当方よりご挨拶させていただき、また、2月21日の貴協会の働く女性応援シンポジウムを当事務所が後援し、参加させていただくなど、お互いの行事への参加・協力を通じて相互理解及び交流を深めております。更に、



女性のエンパワーメント原則（WEPIs）を推進するためのグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン等との連絡会にも貴協会とともに当事務所から参加しております。今後も、双方間で緊密に情報・意見交換を

行い、協力を行っていくことによって、相互の活動がジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に向けてのより大きな推進力となるよう、連携をすすめていきたいと存じます。

昨年は北京宣言及び行動綱領採択20周年にあたり、また、国連において持続可能な開発のための2030アジェンダが採択され、17の目標の中で、目標5のジェンダー平等を含め、ジェンダーの視点が盛り込まれました。本年3月の第60回国連女性の地位委員会（CSW）において、この2030アジェンダを履行していくことが約束されました。UN Womenが提唱している2030年までにジェンダー平等の実現をめざすPlanet 50-50に向けて、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための取り組みを日本においても加速化することが求められており、貴協会と手を携えて活動して参りたいと存じます。今後ともよろしくご協力賜りますようお願い申し上げます。

国連ウィメン日本協会2015年度拠出金支援プロジェクト

2015年度拠出金は、4,862,399円となりました。ご寄付にご協力くださった方々、本当にありがとうございます。この内、2,361,149円（18,962.69ドル）は、ネパール地震緊急募金拠出金として、2015年9月にニューヨークのUN Women本部に送金済です。通常募金としての2,501,250円（22,515.53ドル）では、次の2つのプロジェクトを支援します。

- ①ベトナムのダナンにおける「女性と女兒に対する暴力のない地域づくりプロジェクト」

1,501,250円（13,513.82ドル）

本紙4ページをご参照ください。

- ②女性に対する暴力撤廃信託基金

1,000,000円（9,001.71ドル）

いまだに暴力にさらされている女性は多く、世界の女性の3分の1はその被害者といわれています。国連ウィメン日本協会では、引き続き暴力根絶のための基金に支援を送ります。

応援メッセージ

女性の活躍促進で、大学も社会も活性化する

名古屋大学総長
松尾清一



名古屋大学は、全国の国立大学に先駆けて2003年に男女共同参画室を設置以降、男女共同参画社会の実現、女性研究者支援、ワークライフバランスの推進に向けて、積極的に活動を展開してきました。2015年4月に私が総長に就任後は、これまでの男女共同参画の取り組みをさらに推し進め、「NU MIRAI 2020」と題した2020年までの本学の目標に男女共同参画の拠点の設立、女性教員比率20%、女性管理職の登用推進を掲げました。また、平成27年度には、女性教員数が最も増加した国立大学となりました。こうした本学の姿勢や女性リーダー育成の取り組みなどが国際的にも評価され、UN Womenが行う「HeForSheキャンペーン」を推進する世界の10大学に、オックスフォード大学、ジョージタウン大学、パリ政治学院、香港大学等とともに、名古屋大学は日本から唯一選出されました。HeForSheとは、世界規模でジェンダー平等を推進する運動で、とりわけ男性が変革の担い手になることを目的としています。本学でも、HeForSheキャンペーン推進のため、学内向けシンポジウムを開催したり、ウェブサイトでの情報発信を図っています。

ジェンダー平等の推進は、性別によらず、誰もがその能力と個性を十分に発揮し、活躍できる社会を創造するために重要です。将来の日本の発展を担う人材育成の場である大学では、教育・研究の両面で、男女共同参画意識の醸成が必要不可欠です。少子高齢化社会への対策、日本経済のさらなる発展等、より良い21世紀の日本社会を構築するための方策を考える上でも、グローバルな視野からのジェンダーに関する教育は必須であり、研究者が、その専門性を通して、世界の解決すべき課題に取り組み、社会貢献を果たしていく上での前提ともなるものです。さらに、多様性の確保の観点からも、男女共同参画は重要です。女性が活躍できる大学は、外国人や障がい者等の活躍も容易に行えます。女性のエンパワーメントの推進により、社会が豊かになり、その恩恵は皆が享受できるものです。

国連ウィメン日本協会には、女性の活躍推進の牽引役として大きな役割を果たされることを期待します。

会員企業の紹介

株式会社フジテレビジョン

放送文化推進局長
小田多恵子

「私たちにできること。もっと、もっと」

フジテレビはこのCSRスローガンのもと、社会課題の解決にも取り組んでいます。

あまたの社会課題のひとつ、世界中の女性をエンパワーメントするための国連ウィメン日本協会の活動を、微力ながらフジテレビが支援をさせていただいて今年で3年目。私たちの力だけではなしえない途上国などへの多角的な取り組みを通して、大きな学びを得ています。

女性であるだけで教育や働く機会が奪われることは悲しいことです。そしてまた、国際社会の真の発展のためには大きな損失でもあります。国やジェンダーを超えて人間が活躍できる社会を作るために、国連ウィメンの役割は大きく、年々重要度を増してきています。

フジテレビ自身もまた、女性が働きやすい企業となることもCSRの第一歩ととらえ、子育てをする社員が働きやすい職場環境を実現するために会社の制度としてサポートする体制を整えています。男女雇用機会均等法が施行されて30年、ゆっくりとではありますが、メディアで働く女性の在り方も大きく変わりました。

その先駆者であった有馬真喜子国連ウィメン日本協会理事長には、フジテレビの第三者機関である番組審議会の委員長を長年務めていただき、ジャーナリストとしてのその鋭い視点で放送業界の向上のために諸課題を審議いただいたご縁があります。その有馬理事長を代表とする国連ウィメン日本協会が「女性に貧困・差別・暴力のない生活を」と、展開している様々な啓発、啓蒙活動に心から敬意を表します。

これからも、高い志ですべての人が幸せを享受できる世界とするため、協会のますますのご発展ご活躍をお祈り申し上げます。

国連ウィメン日本協会の活動

ベトナムのUN Womenプロジェクトへの支援について

理事 田中由美子

UN Womenベトナム事務所は、ベトナム中部のダナンにおいて「女性と女兒に対する暴力のない地域づくりプロジェクト」を2014年5月から実施しています。このプロジェクトは、ベトナム女性連合ダナン支部が中心となって実施しており、ダナン市内の3つのコミュニティを対象にし、地域の男性リーダーや女性組織を巻き込み、女性に対する暴力をなくすための啓発・広報キャンペーンを展開しています。国連ウィメン日本協会は、このプロジェクトに対して拠出することを第8回理事会で決定しました。

女性に対する暴力への従来の対策は、どちらかというところ被害者女性に対して家族のもとに戻り、円満な家庭を継続するように促すことが多かったのですが、このプロジェクトでは、地域の仲裁者が女性の権利保護意識を向上させ、女性が自律的に生活を再建できるような支援を奨励しています。また、マスメディアが女性の権利に基づいて、女性に対する暴力について報道するようになるための研修も実施しています。さらに、学校の保護者会に対する啓発活動をおこない、カリキュラムに暴力撤廃についての教育を組み込む試みも行われています。

本年1月にUN Womenベトナム事務所で活躍している石川祥子さんを訪問しましたが、「女性に対する暴力が犯罪だという意識が低いのが問題です。幸せな家庭を守るという考え方が強いので、これまではなかなか家族内の女性に対する暴力対策が進んできませんでした。このプロジェクトでは、若者にも焦点を当て、暴力の連鎖を断ち切ろうとしています。ベトナムでは男女の定年年齢も異なるなど、ジェンダー平等をもっと推進していく必要があります」と語ってくれました。

現在の予算では2016年8月まで実施が可能ですが、国連ウィメン日本協会の支援で2016年末まで活動を延長することが可能になります。

プロジェクトの良いモデルができれば、他の地域にも広げていきたいということです。



ベトナムにおける女性と女兒への暴力防止に取り組む

写真: P4P

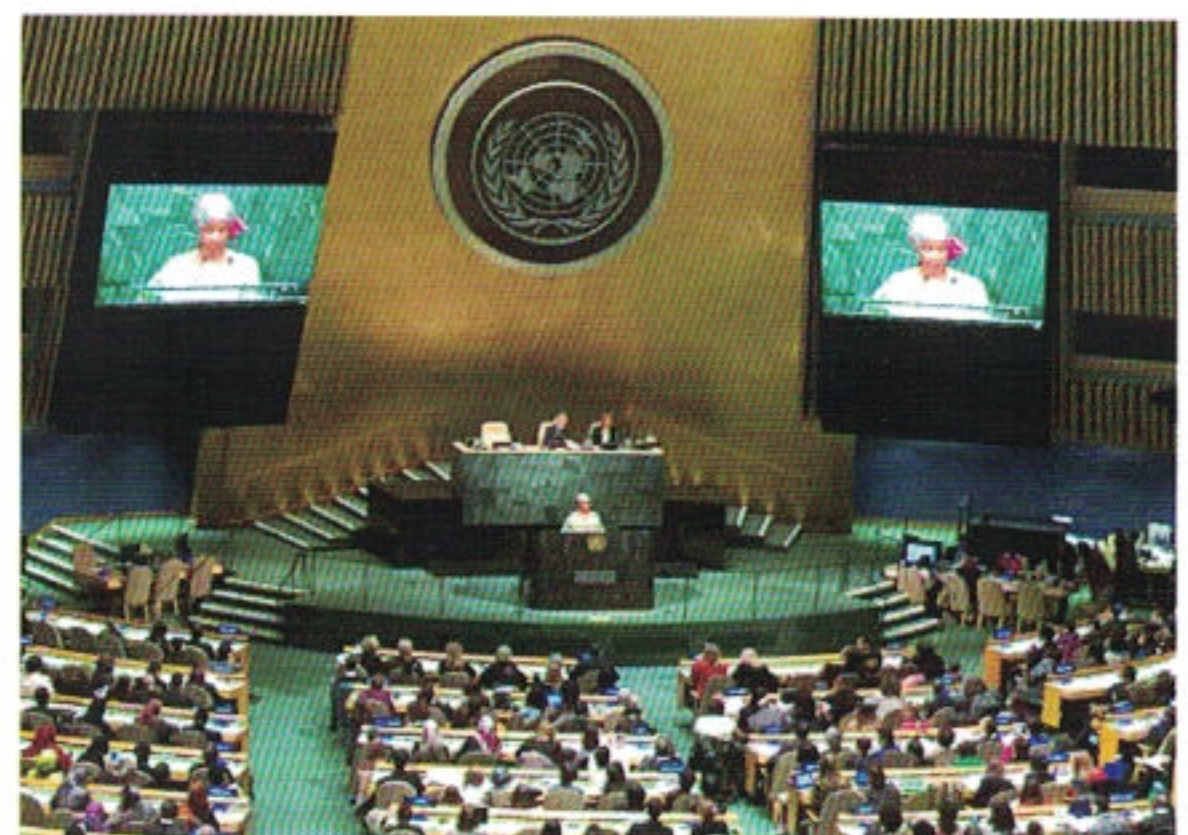
国連女性の地位委員会と UN Women国内委員会会合

理事 田中由美子

第60会期国連女性の地位委員会（Commission on the Status of Women: CSW）（3月13日～24日）が米国・ニューヨークの国連本部で開催されました。本会合では、「女性のエンパワーメントと持続可能な開発の関連性」を優先テーマ、「女性と女兒に対するあらゆる形態の暴力の根絶と防止」をレビューテーマとし、155か国以上から約8,000人の政府・市民代表者が参加し議論をおこないました。また、本会合に合わせて、CSWが第60回目を迎えることを記念して約220のサイドイベントと450以上のパラレルイベントが開催されました。

先進国・途上国を問わず、世界各国は、2030アジェンダの持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けて、今後、具体的な実施計画を策定し指標達成のための活動を開始しなければなりません。特に第5目標「ジェンダー平等と女性・女兒のエンパワーメント」を達成するのみならず、他のすべての目標達成においても、どのようにジェンダー視点に立った取り組みを進めていくのか、明確にしていかなければなりません。各国におけるグッドプラクティスの共有が今後も必要であることが強調されました。

会期中の3月17日にはUN Women国内委員会を対象とした資金集めに関するワークショップ、18日には、UN Women国内委員会の全体会合が開催され、日本を含め14か国の国内委員会の代表が出席しました。全体会合ではUN Women本部の各部署から活動報告がおこなわれ、活発な意見交換が繰り広げられました。特に、1995年に日本の提唱で設置された女性に対する暴力撤廃信託基金は、今年で設立20周年を迎え、オランダにおいて大きな記念行事が行われる予定です。また、He ForSheキャンペーンは、安倍首相が世界のトップ閣僚10人の一人となっています。さらにUN Womenからは各国の国内委員会に対しネパール地震への義援金への感謝などが述べられました。



CSW60開会式でスピーチするムランボ・ヌカカUN Women事務局長

シンポジウム報告

私も大切、仕事も大切の、時代を生きる 一心のケア、教育、仕事の現場から

理事 渋谷典子

「女性活躍推進法」施行直前の2月21日(日)、国連ウイメン日本協会は東京ウイメンズプラザ・ホールで「働く女性応援シンポジウム」を開催しました。専門家、働く女性たち、これから働きたいと考えている女性たち、企業担当者—10代から80代までと幅広い年代からの参加者が集い、第一部はミニ講演会、休憩時間にはエマ・ワトソンの国連でのスピーチ映像を見ながら参加者が質問用紙を記入し、第二部のパネルディスカッションへ。「女性活躍」をキーワードに活発に語り合う時間を過ごしました。

第一部の講師、香山リカ氏（テーマ：『女の壁』と乗り越え方）へは「すべてのことに全力で取り組まなくてはいけないと自分に言い聞かせてつらかった時期があったが、ありのままに受け入れてもよいとお話の中にあっただので、心に余裕が生まれた」、谷口真由美氏（テーマ：『私』でいこう！）へ「一見お笑い表現のなか、『次の世代のために自分たちが声をあげる』という変革のメッセージがあり、深く大きな意味のある言葉だった」、岩田喜美枝氏（テーマ：女性の活躍のために企業が取り組むべきこと）には「年齢に関係なく、成長できる。次世代の女性の力になるという言葉が社内で伝えたい」と、参加者からのコメントがあり、講師それぞれの思いが伝わり、参加者が次の一歩へと進む手がかりになりました。

このシンポジウムの報告書は、国連ウイメン日本協会のホームページから見るができます。

※協賛をいただいた企業の皆様、ありがとうございました。協賛企業：(株)エイチ・アイ・エス、花王(株)、全日本空輸(株)、テスコム電機(株)、(株)LIXILグループ



2016年度 協力協定団体ネットワーク会議報告

副理事長 三隅佳子

2016年度の協力協定団体ネットワーク会議は2月27日(土)、総会終了後の13時30分から16時まで婦選会館の多

目的ホールで行われました。出席者は、協力協定団体の北九州2名、多摩3名、よこはま5名、東京3名、さくら2名と理事長他理事、アドバイザー等14名で計29名でした。

まず、有馬理事長の挨拶に始まりました。UN Women日本事務所との関係、協力協定団体の活動、第4次男女共同参画基本計画にUN Womenへの協力が入っていること等について述べられました。

次に、各団体の活動報告がありました。(主なもの)
北九州…20周年記念誌発行、チャリティバザー、ミュージカル「青い地球は誰のもの『Our Blue Planet』」北九州公演に共催等。

多摩…シャンソンコンサート、モンゴルの女性支援のためのグッズ仕入販売、DV被害者のためのコンサート等。東京の西半分は広域、なかなか集まらない苦勞。
よこはま…ニュースレター発行（印刷は南三陸町の印刷会社へ依頼）、国際女性デーイベント、戸塚まつり参加、チャリティーコンサート実施等。

東京…街中の彫刻を検証、オールソフィアンの集い、連続講座（音楽とジェンダー、美術とジェンダー）チャリティーコンサート、組織力の向上が難しい。

さくら…一冊の会50周年（さくら15周年）記念事業、国際女性デー事業、DVDの作成、人権紙芝居の活用等。続いて質問、意見交換を行いました。

Q₁: モンゴルからの仕入れについて

A: 年1回6月にモンゴルへ行く。他団体で売るのは可能。仕入は現地、現金で仕入れる。

Q₂: 協力協定団体相互に商品の情報交換をしてはどうか

A: 2割の委託料を払えばよこはまのショッブにおける。

Q₃: グッズにロゴをいれたい

A: 日本協会の事務局に申請すれば可能。

最後に、今後のネットワーク会議の持ち方について話し合いをしました。

「各地での開催は現地の会員が多く参加でき、交流もできるメリットがあり、今後の課題としたい。しかし、来年も今年のスタイルで総会後の開催がいい」との結論になりました。



協力協定団体の活動

国連ウィメン日本協会 北九州

3月2日、北九州市立男女共同参画センタームーブにおいて2016年度国連ウィメン日本協会北九州の総会を開催しました。2015年度の事業報告及び決算、2016年度の事業計画及び予算が承認されました。

その後、総会記念講演として、国際基督教大学社会科学研究所顧問で日本国連協会理事の功刀達朗氏に「世界を変革する持続可能な開発のための2030目標について～ジェンダー主流化を考える～」をテーマに、私たち国連ウィメン日本協会北九州の会員に期待される役割などについてお話いただきました。約80人の参加者からは、講演の内容をさらに深く掘り下げるような質問が数多く出ていました。この貴重な経験を基に、今年度の活動もさらに実りのあるものにしていきたいと思っています。

事務局 西岡真弓



国連ウィメン日本協会 大阪

3月26日(土)、クレオ大阪中央にて、国連ウィメン日本協会大阪の総会を開催し、2015年度の事業および会計報告、2016年度事業計画および予算が承認されました。総会では、国連ウィメンに対して効果的な協力が行えるようなキャンペーン活動のあ

平成28年度 クレオ大阪中央 男女共同参画センタームーブ
クレオ大阪中央15階大会議室

女性の活躍促進とリーダーシップ

～国際的な視点から～

参加無料

グローバル化の中で、豊かな社会をつつていくために女性活躍促進は不可欠です。2015年より、国連女性差別撤廃委員会(CEDAW)の委員長に就任、閣議の中で女性差別、海外子差別訴訟など女性の権利に関連する訴訟代理人をつとめることから、外国人女性のジェンダーや性暴力被害者のためのホットラインのアドバイザーとして活動した。

日時 平成28年 6月25日(土) 14:00~16:00

講師 林 陽子 (弁護士 女性差別撤廃委員会委員長)

講師プロフィール
早稲田大学法学部卒業。1993年より弁護士。日本人女性として初めて、国際連合人権条約機関である国連女性差別撤廃委員会(CEDAW)の委員長に就任。閣議の中で女性差別、海外子差別訴訟など女性の権利に関連する訴訟代理人をつとめることから、外国人女性のジェンダーや性暴力被害者のためのホットラインのアドバイザーとして活動した。

対象：どなたでも
定員：80名(申込先着順)
会場：クレオ大阪中央(地下鉄御堂筋線「西天王寺駅」徒歩約3分)
手話通訳：あり ※6/15(水)までに要申込
申込方法：クレオ大阪ホームページから、電話、FAX、来館
(詳しくは裏面をご覧ください。)

主催：大阪府男女共同参画センター中央館 後援：大阪府男女共同参画推進委員会
共催：国連ウィメン日本協会大阪

り方について、会員同士の活発な意見交換が行われました。

今年度は、6月25日(土) 14時よりクレオ大阪中央(大阪市天王寺区上汐5)にて、チャリティイベントとして国連女性差別撤廃委員会委員長で弁護士の林陽子さんをお招きして講演会を実施します(参加無料、定員80名)。日本人女性として初めて女性差別撤廃委員長に就任された林さんのお話を大阪で伺える大変貴重な機会です。ぜひ、ご来場ください。

事務局 岸上真巳

国連ウィメン日本協会 堺

堺市は2014年UN Womenセーフシティプログラムに参加し「女性や子どもに対する暴力のない安全で安心なまちづくり」を進めています。国連ウィメン日本協会堺では、正会員の堺市女性団体協議会の定期総会において、プランジャパンの理事である大崎麻子さんをお迎えし、堺市田村副市長にもご参加いただき、「トイレから考える女性と女の子のエンパワメント」をテーマにセーフシティ堺の実現に向けて学習しました。



国連ウィメン日本協会 多摩

2月13日府中市において、2016年度総会をもちました。かなり遠くからも来ていただきました。すべての案件が承認され、今年度新役員で新たにスタートをすることができました。総会后、梅木秀則さんによる、モンゴルホーミーの演奏会には会員以外のお客様に大勢いらしていただくことができ、活動の宣伝はできたと思いますが、なかなか会員増に結び付けられないのが悩みでもあり、今後に向けての大きな課題だと思っています。また高齢化も問題になりつつあります。現役の方は忙しすぎて、なかなか活動に参加するのが難しく、会全体の活動が弱くならないよう、今年度の計画を進めていきたいところ

です。

小川裕未

国連ウィメン日本協会 よこはま

2月7日、総会を開催。各報告等が承認され、2年に一度の新役員を選出も行いました。バザーとランチの後、会員の関係者によるポーランド研修の報告があり、歴史を直視し続ける国の事情を伺いました。

3月5日の国際女性デーのイベントは、ラオス山の子ども文庫基金代表の安井清子さんの講演を開催。安井さんは、モン族の子どもたちの映像を交えた温かいエピソードの数々と、難しい状況下でも夢を持って努力できることの幸せを語りかけました。今年は、一般の参加者に加えて東洋英和、山梨、静岡の三英和女学院の生徒さんも参加され、ラオスを通して色々な世代間交流の場となりました。

事業部会 増岡啓子



ラオスの民族衣装姿の安井さん(右)と
コーディネーターを務めた深瀬さん

国連ウィメン日本協会 東京

2月9日の総会で新役員が承認され、牧島悠美子会長、城倉純子・中曾美穂子両副会長の体制で今後2年間活動していくことになりました。事務所も東中野から西荻窪に移転となりました。

総会では記念講演として国連本部経済社会局統計部の大崎敬子副部長に「国連と女性－女性の地位向上に挑んだ70年」として国連70年の歩みを話していただきました。

毎年2回のチャリティコンサートを開催しておりますが、7月6日(水) 14:00から「ピアノとピッコ

ロ 初夏のコンサート」として古賀政男音楽博物館 けやきホールで、第26回のチャリティコンサートを予定しています。参加ご希望の方はご連絡ください。

役員として活躍頂けるはずであった平野和子会員が4月24日に急逝されました。本部で翻訳などの仕事を長くされていた方で、知人も多くおられたと思います。ご冥福をお祈りいたします。

会長 牧島悠美子



国連ウィメン日本協会 さくら

戦後70年。女性の権利獲得から日本女性の地位は向上しているのかを学びたい、と清泉インターナショナルの小6年生4人が来所。学校の課題とのこと。韓国、タンザニア、スウェーデン、レソトと祖国はそれぞれ違って連携プレーで“日本の地位は進んでいますか？”“国は女性に十分な支援をしていますか？”“意識が変わるのに時間がかかり、嫌になったり、諦めてしまう気持ちになったりしませんか？”など鋭い質問が次々と。「人間は一人残らず幸福になる権利があり、人権の立場から一人も置き去りにしない」という目標に向かって「持続可能な2030アジェンダ」を努力中。可能性は無限！だから私たちは挑み続ける。時代を越え諦めないで、と。その行動を受け継ぎ未来を開く真の後継者を真剣に応援。

広報部



事務局からの報告

■マンスリー寄付のお願い（個人の方のご寄付）

個人の方のご寄付では、インターネットを通じて毎月定額を継続しての寄付（マンスリー寄付）ができます。マンスリー寄付は、一回手続きをしていただければ、毎月定額を継続して寄付していただくことができる仕組みです。世界の女性たちの支援のためにご協力をご検討ください。ホームページの「寄付する」からのアクセスをお願いします。

■賛助会員を募集しています

国連ウィメン日本協会では、賛助団体、賛助個人を募集しています。賛助会費は寄付金控除等の対象となります。国連ウィメン日本協会を通じて女性支援をお考えの皆様、ご連絡をお待ちしております。

■国連ウィメン日本協会2015年度決算報告

（2015年1月1日～12月31日）単位：円

一般会計

■収入の部		■支出の部	
会費収入	2,780,000	拠出金	4,862,399
事業収入	15,000	事業費	3,844,966
寄付金収入	6,506,149	管理費	1,459,244
その他の資金繰入	1,300,000		
受取助成金	200,000		
雑収入	546		
当期収入合計	10,801,695	合計	10,166,609
その他の資金			
■収入の部		■支出の部	
利息	753	一般会計に繰出	1,300,000
当期収支差額	△664,161		
前期繰越収支差額	9,326,367		
次期繰越収支差額	8,662,206		

■寄付者一覧（前回掲載以降2016.5.31現在）

酒井真喜子 本田敏江 ブックオフコーポレーション(株) 森真理子 高橋克子 国連ウィメン日本協会東京 国連ウィメン日本協会堺 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会多摩 国連ウィメン日本協会大阪

国連ウィメン日本協会北九州 岩田喜美枝 矢部和子 鷺見八重子 (株)エイチ・アイ・エス (株)LIXIL 滝裕子 池田露子 十文字学園生活協同組合 (株)サンライズ谷川 陽子 群馬婦友会 彩歩の会 北井久美子 岡島敦子 国立女性教育会館 原庸一郎 国際ソロプチミスト京都 永井多恵子 谷口祥司 藤原康洋 榎本和

■ブックオフ宅本便寄付（前回掲載以降2016.5.31現在）

谷口裕未 谷口真理 東金久美子 水口海 三輪敦子 ツチモトユキコ 中林友美 加藤恵子 菊池啓子 内藤美保

■(株)高島屋のユアチョイスギフトカタログによる寄付

■正会員団体18団体（前回掲載以降2016.5.31現在）

〈団体〉(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO 法人一冊の会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 全国友の会 国連ウィメン日本協会堺 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会多摩 国連ウィメン日本協会東京 国連ウィメン日本協会よこはま (公財)横浜市男女共同参画推進協会 国際ゾント26地区 (一社)大学女性協会
 〈企業〉イオン1%クラブ (株)高島屋 日本たばこ産業(株)

■正会員個人41名（前回掲載以降2016.5.31現在）

伊藤光子 岩城淳子

■賛助団体15団体（前回掲載以降2016.5.31現在）

〈団体〉(公財)京都市男女共同参画推進協会 久留米市男女平等推進センター (一社)国際女性教育振興会茨城県支部 越谷ミズの会 (公財)せんだい男女共同参画財団にいがた女性会議 日本生活協同組合連合会 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団 NPO法人トルコ文化交流会 国際ゾント姫路ゾントクラブ
 〈企業〉(株)グッドバンカー (株)電通 (株)リコー (株)フジテレビジョン (株)クロスメディア・ランゲージ

■賛助個人141名（前回掲載以降2016.5.31現在）

秋月弘子 上田梨恵 黒瀬友佳子 向後紀代美 小川利恵 向井真代 西脇さところ 吉田良子

<認定>NPO法人国連ウィメン日本協会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL.FAX. 045-869-6787

・E mail unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ http://www.unwomen-nc.jp

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

